

歩く県道とは



福島県では、車の通行が不能となっている県道会津若松三島線、県道小林会津宮下停車場線（会津銀山街道の吉尾峠）を歩く県道として、整備・利活用し、地域の活性化につなげるための取り組みを行っています。今年度も道普請を実施して街道の整備を行うとともに検討会を開催し、峠道を活用した地域づくり活動について、地域の皆様と話し合いを行いました。

「普請」（結ともいいう）は、町村や地区全体にとってプラスになることをみんなの力を合わせて行うことです。今日でも青年団の「むら仕事」や町内会の「側溝の清掃」などが行われています。私たちが取り組む道普請は、人が歩き、馬や牛が行き交っていた時代の主要な街道（会津銀山街道と旧越後街道）の峠道を対象として、自然に寄り添った工法「近自然工法」で整備を行っています。



- 1: 完成後の集合写真。笑顔で完成を喜び合いました。
- 2: 生徒に粗朶柵の枝の積み方を教える昭和村の渡辺稔雄さん。軽く、通気性の良い菅笠がかっこいい！
- 3: 生徒が丸太杭を打つ様子。「上手、上手！」など、声をかけ合いました。
- 4: 丸太橋を組む様子。カスガイで丸太を固定しました。



今回の連携を通して、本事業が様々な世代をつなぎ、地域の文化や歴史を伝えるきっかけとなることを再認識しました。今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

銀山街道を活用して地域を元気にする会の渡辺稔雄さんは、これまでの道普請の歩みを振り返り、「峠の道づくりを通じた若者とのつながりを大切にしたい」と胸の内にある今後の期待を語ってくれました。

感想をいただきました。令和3年7月8日に総勢49名に参加いただきました。川口高校の皆さんからは、「生徒間の関係性が深まった」「物を作る充実感があった」「地域住民との交流により地域の歴史など気づきがあり、刺激になった」などの感想をいただきました。

美女峠は、清水が湧く街道です。街道の利活用に向け、地元から水場を整備したいと要望をいただいています。今年度は、川口高校とも連携して、高姫清水の魅力を高めるために橋やデッキ、ベンチをつくりました。

美女峠、川口高校生と高姫清水の魅力づくり

道普請前日に座学

川口高校の皆さんに、街道の歴史や整備の方法について理解を深めていただくため、道普請作業の前に、アドバイザーの田賀先生（東北芸術工科大学非常勤講師）に講義していただきました。

講義は、1・2年生が受講し、会津銀山街道の概要や当日の施工方法などの他に、四国にある山間の暮らしの事例を基に、里山の土地利用の合理性や人の手で扱える資材の大きさがどの程度であるかなどを教わり、熱心に話を聞いていました。



整備前



2



3



整備後

1

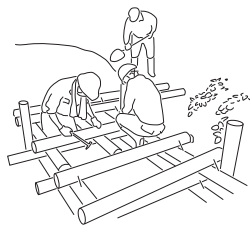


4



5

- 1: 整備前と整備後の様子。休憩ポイントが増え、山行の計画を考えるのがより楽しみに！
- 2: 丸太を組んだ上に、板を渡した丸太橋とデッキはとても頑丈です。
- 3: 丸太等、資材を運ぶ様子。
- 4: 大きなベンチ。お弁当を広げたり、コーヒーをいれたり、あなたならどんな楽しみ方？
- 5: 丸太杭と枝でつくった粗朶柵。土留めや清水への誘導の役割があります。



現場に到着後、班分けを行い、丸太橋とデッキ、ベンチ、高姫清水周辺の粗朶柵や丸太列柱などの作業を進めました。それぞれ均等に地元の皆さんに入っていたいただき、全体をアドバイザーの田賀先生に監修していただきました。

完成した丸太橋などの見栄えも良く、高姫清水の魅力が高まりました。

高姫清水につくった丸太橋とベンチ



高姫清水で川口高校と連携してつくった丸太橋とデッキ、ベンチ。作業は、資材運搬からはじまります。道中は、里山や樹木の知識、丸太の担ぎ方などを紹介しながら歩きました。最初は、不慣れで苦戦しているようでしたが、慣れてくると、大きな丸太を軽々運ぶ姿は頼もしい限りでした。

会津銀山街道の魅力 「美女峠の高姫伝説」

「高姫伝説」という平家の落人伝説が美女峠にもあります。平維盛に仕えていた目指左衛門尉知親（めさしさえもんのじょうともちか）の娘「高姫」と平家方の若侍「中野丹下（なかのたんげ）」は互いの苦しい境遇を乗り越え晴れて夫婦になりますが、身の置き所に苦しみ続け、心中してしまうという悲恋の物語です。三島町間方地区ではこの伝説を語り継ごうと紙芝居を作り、町のイベントなどで上演しています！



ご意見・お問い合わせ

福島県会津若松建設事務所企画調査課

MAIL : wakamatsu.ken.kikaku@pref.fukushima.lg.jp

TEL : 0242-29-5455 / FAX : 0242-29-5459



会津銀山街道